

(ア)・(イ)・(エ) は、しんまち地区にある実在の屋号。

天保14年(1843年)創業「佐忠」さんが、明治末期に呉服店として建てた土蔵を改修し、しんまちの資料館・地場産品販売所として開店しました。「富谷宿」の「富」という字は、お店に伝わる資料をもとに、宿場町時代の字を使用しています。

江戸時代から現在までの多彩な生活道具や民芸品などがそろい店内は、商品だけでなく、さまざまな企画展示の会場にもなります。「富谷宿」はしんまちの魅力がぎっしり詰まった歴史の宝庫。「民俗ギャラリー」とともに、富谷市の文化を知る上で欠かせない貴重な資料を多数収蔵しています。



(作成：富谷塾 佐藤紀雄氏)